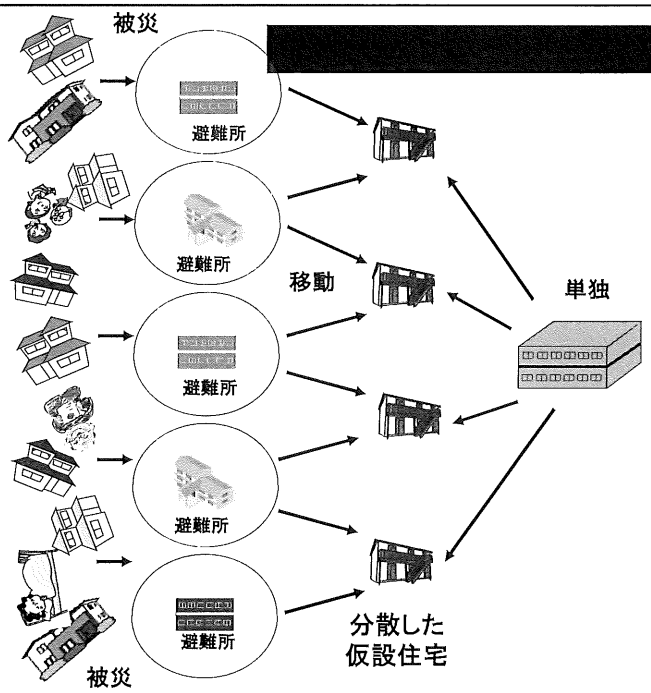
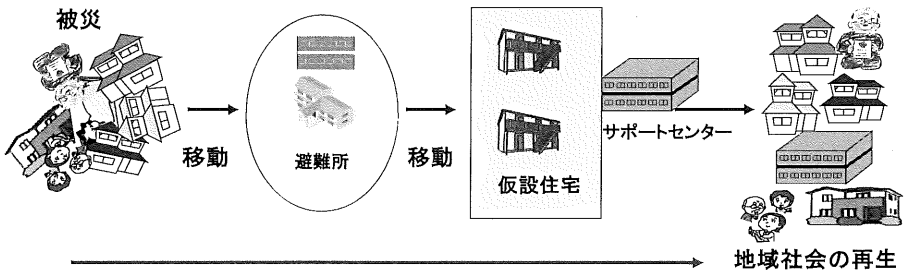


24時間365日連続して
生活を支えるセンター

3食365日の配食事
24時間365日の訪問介護
24時間365日の訪問看護
365日無休の通所介護
または
これらを一体的に提供する小
規模多機能型居宅介護
加えて
介護予防・健康増進
心のケアなどの各種相談
育児・学童支援
各種アクティビティ
そして
目標は元の地域に戻ること
現在の健康を保持すること
悪化を防ぐこと

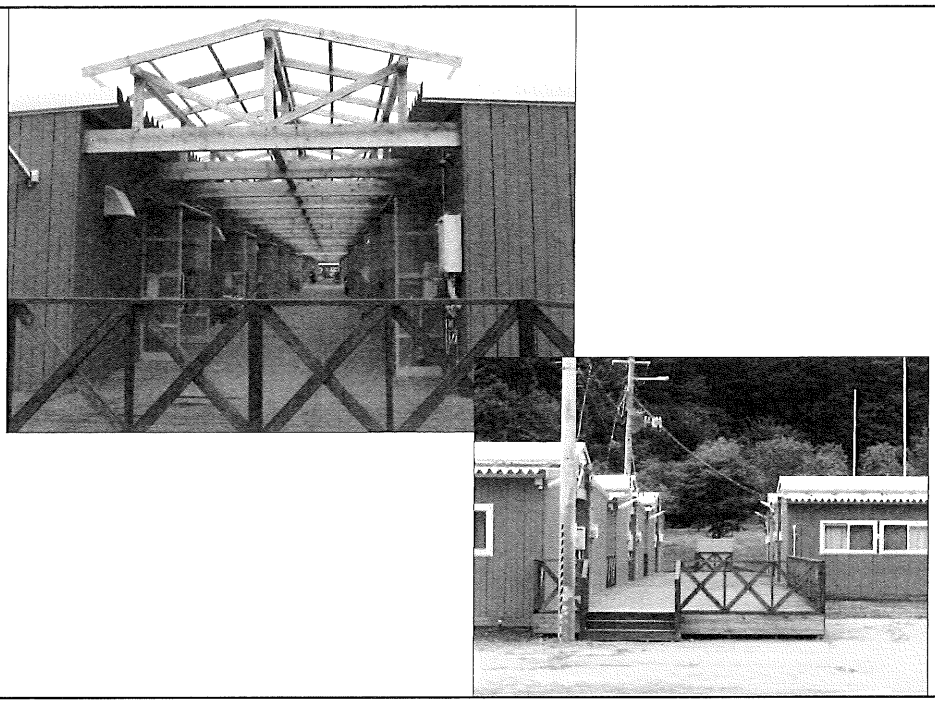
81



24時間365日連続して生活を支えるセンターは被災時から平常時まで変わらない

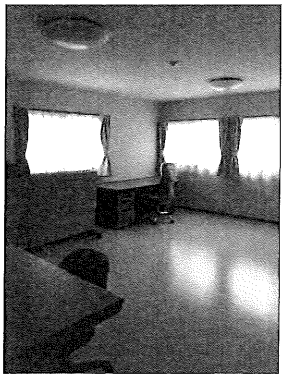
3食365日の配食事・24時間365日の訪問介護・24時間365日の訪問看護・365日無休の通所介護
または
これらを一体的に提供する小規模多機能型居宅介護
加えて
介護予防・健康増進・心のケアなどの各種相談・育児・学童支援・各種アクティビティ
そして
目標は元の地域に戻ること・現在の健康を保持すること・悪化を防ぐこと

82

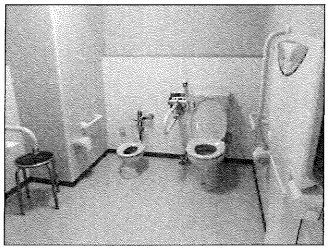


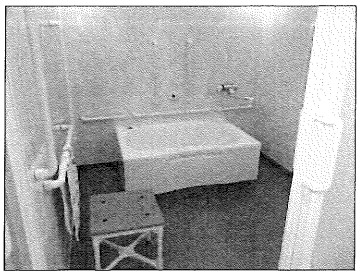
83

84

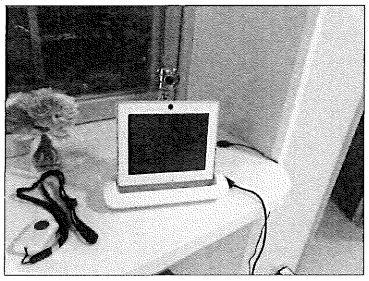


サポートセンター内の診療所
2回／週



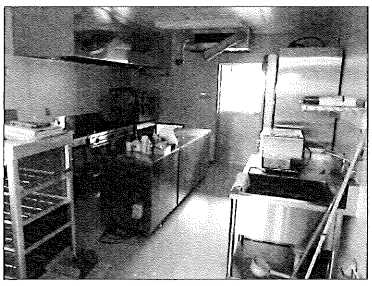


85

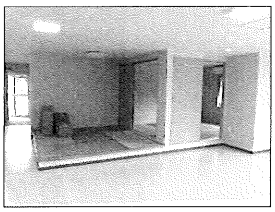


24時間体制のテレビ電話

平田地区　サポートセンター



厨房



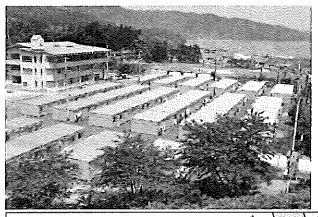
86

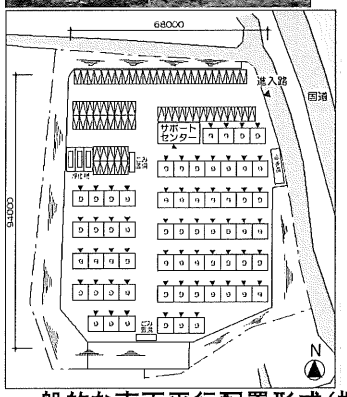
災害対応
東日本大震災におけるサポートセンターを備えた
コミュニティ型仮設住宅の提案と実績

東京大学建築学教室
大月敏雄教授提供資料

87

今回の震災において、多く供給された仮設住宅





一般的な南面平行配置形式（概念図）

【特徴】
- 北入り南面平行配置
- 基本的に9坪のみ
- 集会所（50戸以上）

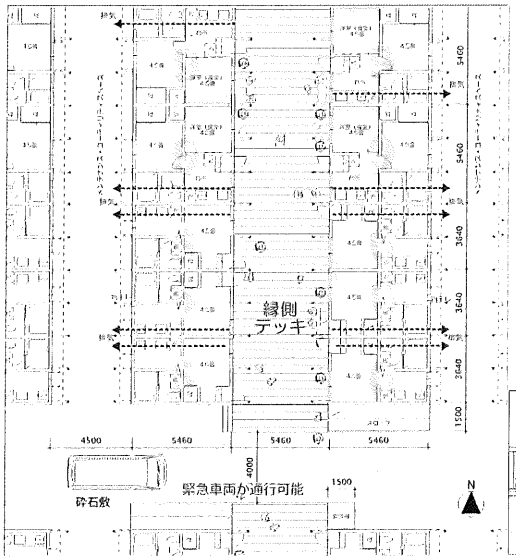
【課題】
(1) コミュニティ形成
- 他者と出会う確率少ない

(2) バリアフリー欠如
- 住戸内外の段差
- 砂利敷きの住戸前通路

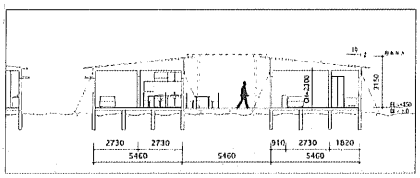
(3) 住宅のみ
- 医・職／食・住の要素

88

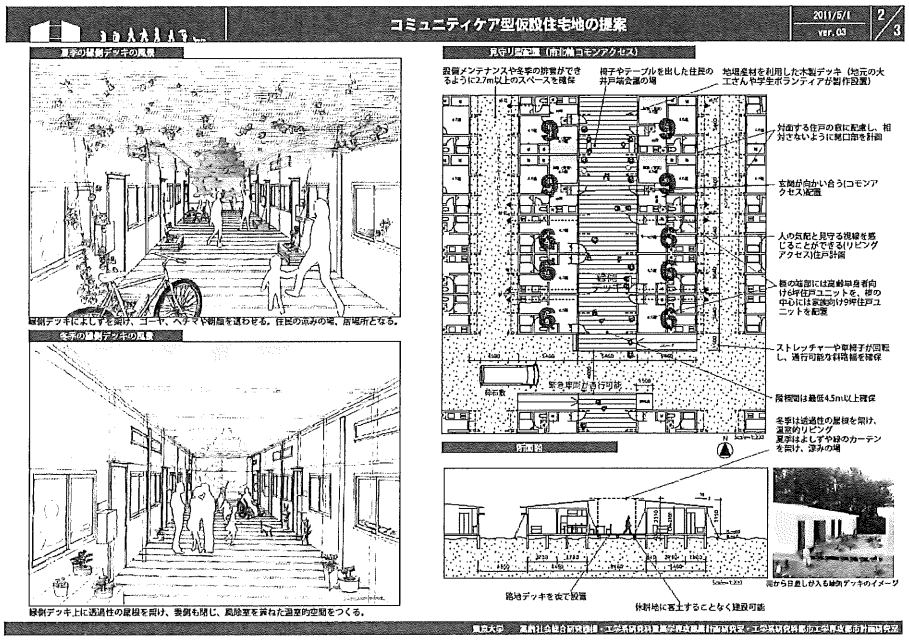
(1) コミュニティ形成　南北軸コモンアクセス



- 住戸を向かい合わせに（コモンアクセス）
  - 自然なコミュニティ形成
  - 自然な見守り
  - 孤独死防止
- 南北軸に
  - 環境の平等性
  - 裏面間隔を縮小(高密)
  - 配管統合(ローコスト)

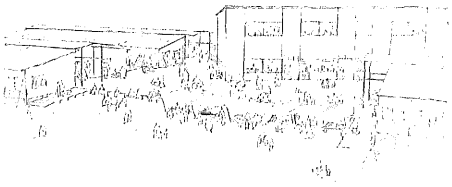


89

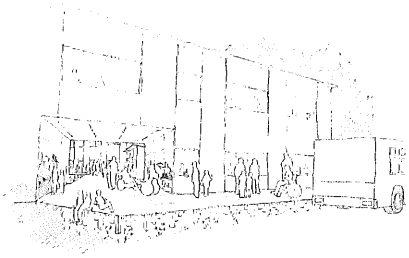


90

(3) 医・職／食・住がサポートされた住環境



仮設店舗でにぎわうイメージ

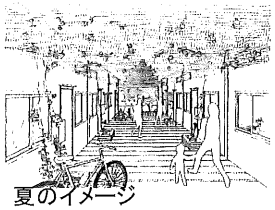


仮設住宅を市街地と結ぶバス停留所イメージ

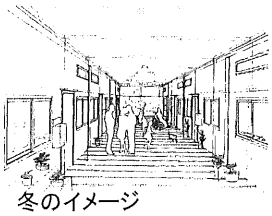
- 物を買う場
  - 仮設店舗・仮設スーパーの誘致
- 働く場（職）
  - 仮設の事業所の設置
- 福祉の場（医）
  - サポートセンターの福祉拠点化
    - デイケアセンター
    - 訪問介護事業所
    - 診療所、託児所等の機能併設
- 外部の医（福祉）・食／職につなぐための交通サポート
  - 循環バスの導入
  - 停留所のコミュニティスペース化

91

(2) バリアフリー　路地デッキ＋コモンルーフ

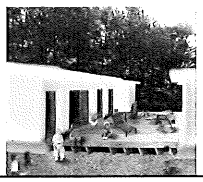


夏のイメージ

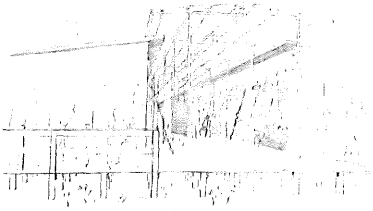


冬のイメージ

- 路地デッキによるバリアフリー
  - 住戸内外の段差の解消
  - 住戸前面通路のバリアフリー
  - 向こう三軒両隣による見守り
- コモンルーフによる温熱環境改善
  - 夏場は、日よけに
  - 冬場は、両サイドを閉じて温室的空間に
  - 家の前に　みんながくつろげる空間を

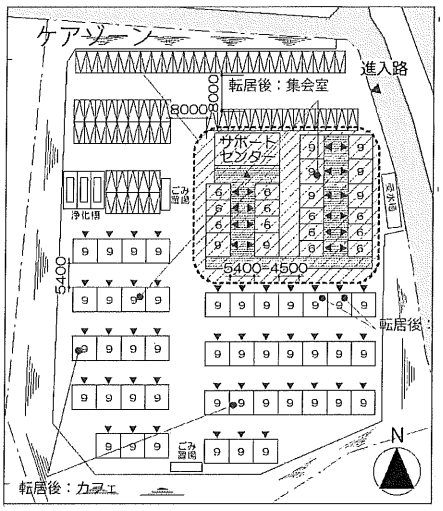


イメージ模型



92

(2) バリアフリー　ケアゾーンの設定



サポートセンターとコモンアクセス住棟をバリアフリーでつなぐ

- 屋根のない施設の実現

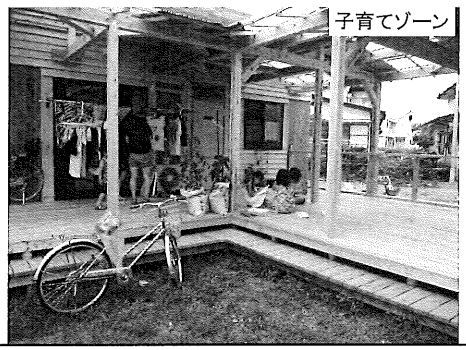
ケアゾーンと一般ゾーンの設定

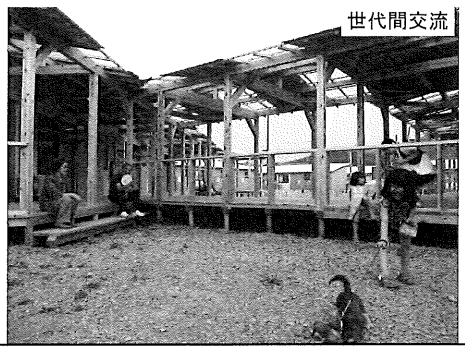
- コミュニケーションとプライバシーのバランス
- コミュニティケア＞プライバシー
  の人のためには、ケアゾーンを
- コミュニティケア＜プライバシー
  の人のためには、一般ゾーンを
- ケアゾーンと一般ゾーンでの近居・隣居
  （被災地に多い、大家族への対応）

93

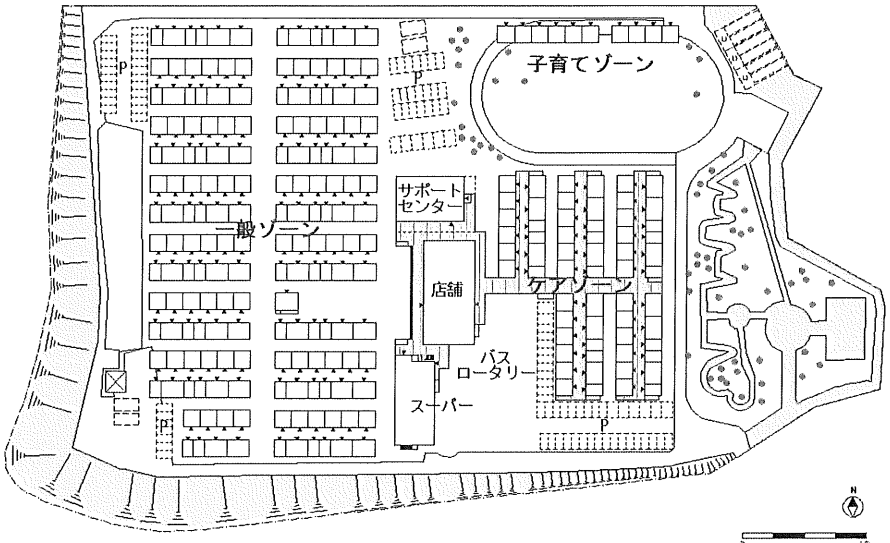
隣地穀町公園から遠景

ケアゾーン


子育てゾーン


世代間交流

94

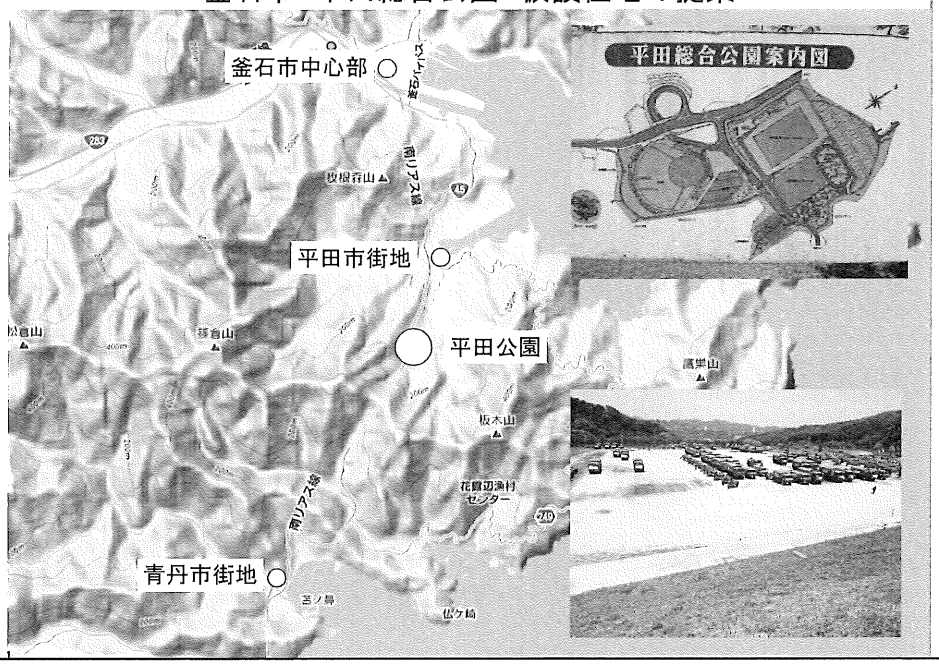


・仮設店舗・スーパーの誘致
・サポートセンター内に診療所を設置
・各部分を路地デッキでつなぐ
・極力整地しない

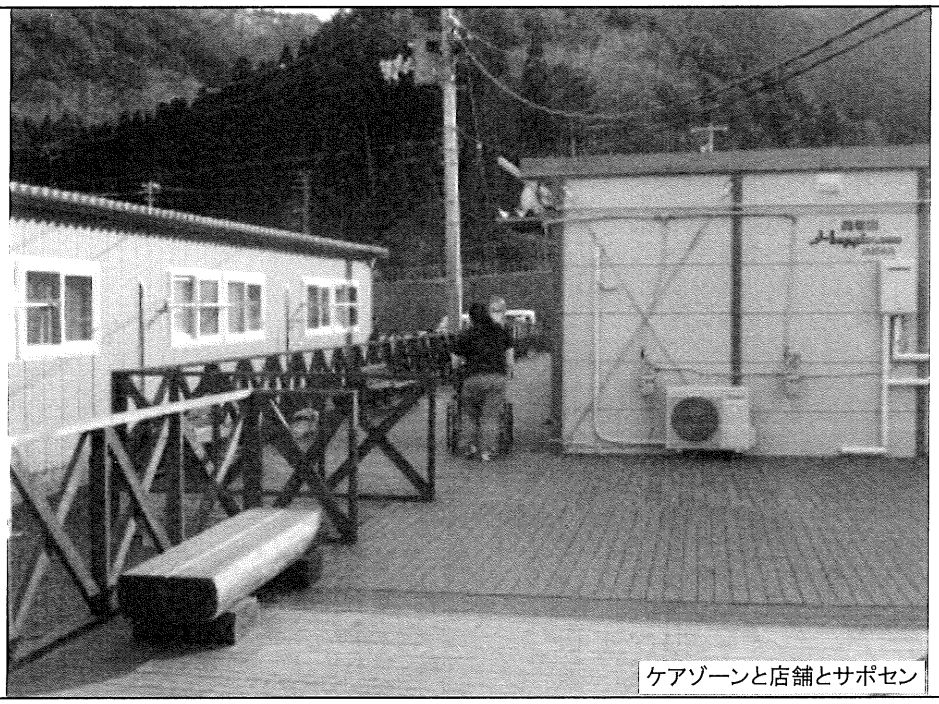
	6坪	9坪	12坪	計(戸)
ケアゾーン	15	30	15	60
子育てゾーン		10		10
一般ゾーン	47	76	47	170
計(戸)	62	116	62	240

95

釜石市　平田総合公園　仮設住宅の提案



96



97

2011年　IOGプロジェクト　コミュニティケア型仮設住宅

釜石市平田(へいた)第六仮設住宅　2013．04

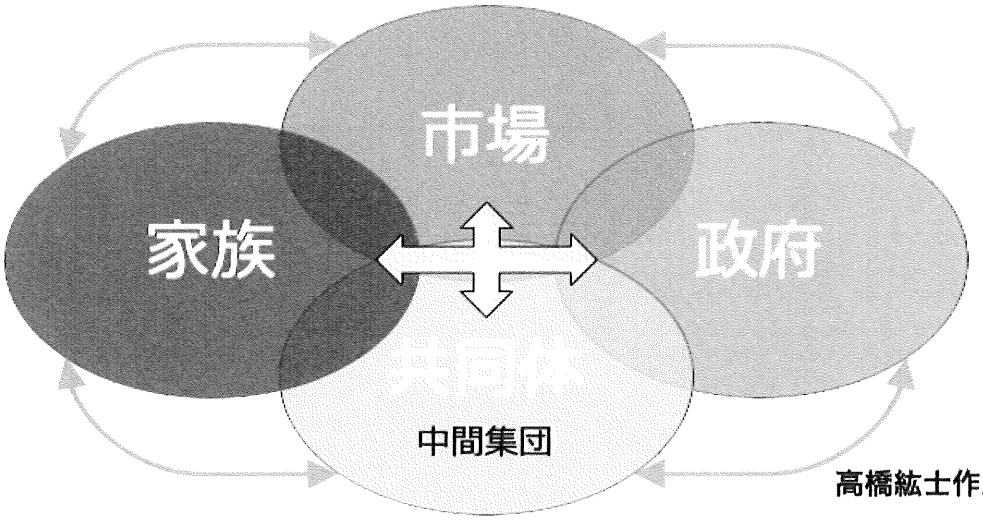
98

まとめにかえて

99

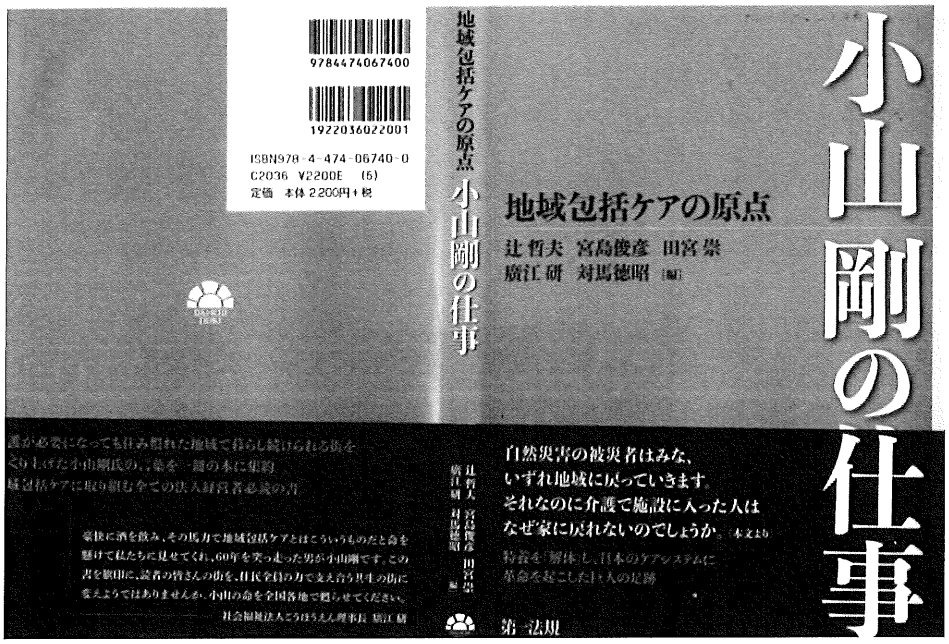
社会の四元構造

前記に加えて中間集団が構成する共同体を導入

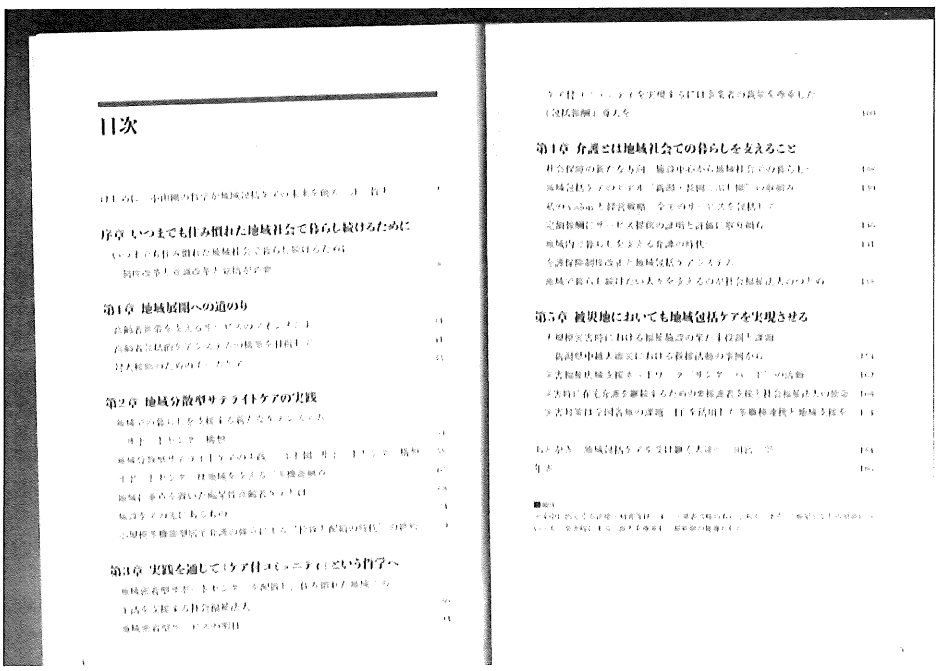


高橋紘士作成

100


小山剛の仕事
地域包括ケアの原点
辻哲夫 宮島俊彦 田宮崇
廣江研 対馬徳昭 [編]
自然災害の被災者はみな、
いずれ地域に戻っていきます。
それなのに介護で施設に入った人は
なぜ家に戻れないのでしょうか。[本文より]
第一法規
9784474067400
19220360220001
ISBN978-4-474-06740-0
C2036 ¥2200E (5)
定価 本体2200円+税
地域包括ケアの原点 小山剛の仕事
辻哲夫 宮島俊彦 田宮崇
廣江研 対馬徳昭 [編]

101


目次
序章 いつまでも住み慣れた地域社会で暮らし続けるために
第1章 地域展開への道のり
第2章 地域分散型サテライトケアの実践
第3章 実践を通してケア倫理という哲学へ
第4章 介護とは地域社会での暮らしを支えること
第5章 被災地においても地域包括ケアを実現させる

102

宣伝です

地域包括ケアのあり方について座談と書き下ろしの書籍を刊行しています。小山剛氏の仕事についても一章をさいて論じてありますので、参考にしてください。

木星舎の本　tel 092-833-7140　info@mokuseisya.com

地域包括ケアを現場で語る

人を想い
地域を耕し
社会を変える人たちと

高橋 紘士 編著 Takahashi Hiroshi

介護・福祉・医療・看護に携わる人　必読の1冊

日本の土の中から生れた宝石のような実践の数々。それを座談会という日本生れの手法も使って歴史的視座から解き明した、前代未聞の本。医療や福祉や介護・看護の現場、そして行政の世界で、前例を超えた前例を創ろうとしている方々にとって、必読書です。
大熊由紀子

この人には何が必要か？　誰がいっしょに悩むのか？
すべては目前にいるひとりとの出会いから始まる。
本書は「地域包括ケア」という既存の言葉を、現場の問いと模索と実践から再構築する試みだ。
認定NPO法人抱樸　奥田知志

A5判　並製　288ページ
定価2700円（＋税）
ISBN978-4-909317-25-4

■ 現場で語り合う人・語られる人
水田　恵 ／ 宮島 俊彦
市原 美穂 ／ 園田眞理子
市川 禮子 ／ 三浦　研
堂園 晴彦 ／ 堂園 春衣
宮本 太郎 ／ 奥田 知志
太田 秀樹 ／ 山口　昇
大月 敏雄 ／ 柘成 保志
小山　剛 ／ 佐藤　智
加藤 忠相　ほか

CONTENTS

序章　地域包括ケアシステムの見取り図―在宅医療との対話
第Ⅰ部　地域包括ケアを現場で語る　対談と鼎談
1章　ふるさとの会の生活支援―山谷から地域へ　2章　とも暮らしの住まい方…ホームホスピスからのメッセージ
3章　「けま百寿会」創設ユニットと認知症ケア―共同式の覚した仕事　4章　NAGAYA TOWERが住まいを変える
5章　「取囲」生活用具を生み出さない社会へ―包括的居住支援の提案
第Ⅱ部　地域包括ケアシステムの共通基盤（プラットフォーム）
1章　「こ、ろし屋」長寿を地域に展開する―小山剛の仕事　2章　三方よし研究会と地域まるごとケア―近江の国府
3章　ケアの基礎を新たなかたち―安老所よりおい、ホームホスピス、あおいけあ
第Ⅲ部　地域包括ケアの未来をたどる
1章　聖隷国際病院の経験―地域包括ケアの創始　2章　在宅福祉事業の創始と展開―春日市社協の事業
3章　包括的支援としてのライフケアシステム―佐藤智医師の仕事
4章　社会事業の可能性―同潤会による不良住宅改良事業の構想と展開

■編著者　高橋紘士　特別法人社会保障研究所常任理事、法政大学、立教大学、東京通信大学などで教鞭の他、高齢者住宅財団理事長、東京都社会福祉協議会会長などを歴任。現在、高齢者住宅協会顧問、全国ホームホスピス協会理事、全国朝住支援法人協議会顧問などを務める。この間、厚労省老健局「介護研究会」「地域包括ケア研究会」他、内閣官房委員等を務める。共著に『地域包括ケアシステム』（岩波書店）、『ナース仕事・地域包括ケア』（日本看護協会出版会）、『コミュニティ再建学入門』（有斐閣）他多数。

地方出版流通センター 取扱品	書店名・帳合 TEL	部数	地域包括ケアを現場で語る 定価2700円（＋税） ISBN978-4-909317-25-4 木星舎